

# 【漁況】

## [マアジ]

### 1. 漁獲量の動向（農林統計）

全国のマアジの漁獲量は、昭和40年の53万トンにピークに減少傾向となり、昭和55年には5万4千トンとなりました。その後増加傾向に転じ、平成8年には33万トンに増加し、平成10年までは30万トン台で推移しましたが、再び減少傾向に転じ、平成25年も15万1千トンと低調に推移しました。

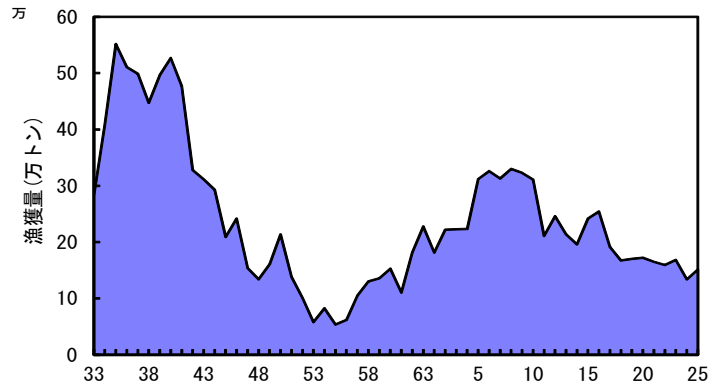


図 全国のマアジ漁獲量の推移

### 2. 平成27年1～3月期の漁況の経過

#### 【4港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域では、甌東、甌西で漁場が形成されました。

薩南海域では、1月に内之浦沖、野間池沖で漁場が形成されましたが、他の月は漁場が形成されませんでした。

4港計のまき網では、マアジ仔・豆（1歳魚：平成26年生まれ）主体の好漁がみられ、期全体で1,537トンの水揚げで、前年の126%及び平年の180%と好調に推移しました。

### 3. 平成27年4～6月期の見とおし

漁獲の主体は、マアジ仔・豆（1歳魚：平成26年生まれ）で、マアジ小・中（1,2歳魚：平成26,25年生まれ）も混じるでしょう。

来遊量は、前年を上回り、平年並となるでしょう。

（根拠）

漁獲の主体と来遊量は、現在の漁況経過や近年の漁獲パターンから予測しました。

漁獲主体となるマアジ1歳魚は、1月以降非常に好調に推移しており、前年・平年を上回ると考えられます。しかし、2歳魚以上はやや低調に推移していることから、全体としては、前年を上回り、平年並と考えられます。

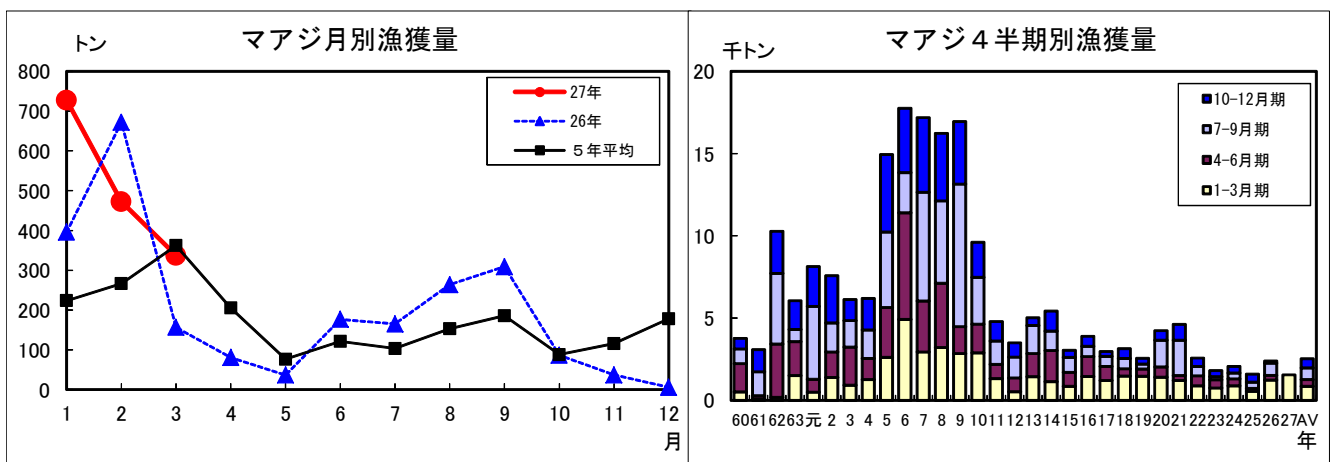


図 マアジまき網漁獲量変化(4港計)

※平年値は過去5年（平成22～26年）の平均値(AV)、平成27年3月25日までの水揚量を使用

## [サバ類]

### 1. 漁獲量の動向（農林統計）

全国のサバ類の漁獲量は、昭和53年の160万トンにピークにマサバ資源水準の低下により年々減少し、昭和57年には72万トンとなりました。昭和63年以降はゴマサバの資源水準も低下したため、サバ類の漁獲量は大きく減少しましたが、平成5年から増加に転じ平成9年には84万9千トンまで増加しました。その後再び減少し、平成14年は28万トンになりました。平成17年・18年は再び増加しましたが、平成19年以降減少傾向にあり、平成25年は38万6千トンとなりました。

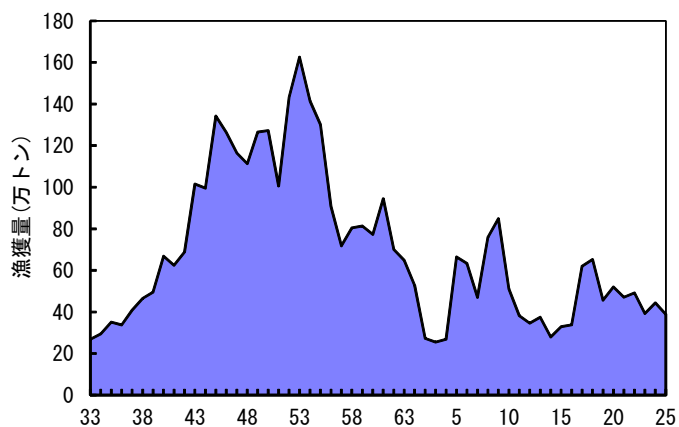


図 全国のサバ類漁獲量の推移 年

### 2. 平成27年1～3月期の漁況の経過

#### 【4港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域では、天草沖、串木野沖、甌東、甌西で漁場が形成されました。

薩南海域では、野間池沖、内之浦沖、馬毛島、種子島東で漁場が形成されました。

4港計のまき網では、ゴマサバ中（2・3歳魚：平成25・24年生まれ）、中小（2歳魚：平成25年生まれ）主体に期全体で5,923トンの水揚げで、前年の135%及び平年の105%となりました。

### 3. 平成27年4～6月期の見とおし

漁獲の主体は、ゴマサバ中小、中（2・3歳魚：平成25・24年生まれ）で小（1歳魚：平成26年生まれ）も混じるでしょう。

来遊量は、前年を下回り、平年並となるでしょう。

（根拠）

漁獲の主体と来遊量は、現在の漁況経過や近年の漁獲パターンから予測しました。

漁獲の主体となるゴマサバ2・3歳魚は、2・3月、1歳魚は、1～3月にややまとまった漁獲がみられ、今後も平年並の漁獲が期待されますが、前年4月の好漁には及ばないと思われることから、全体としては、前年を下回り、平年並と考えられます。

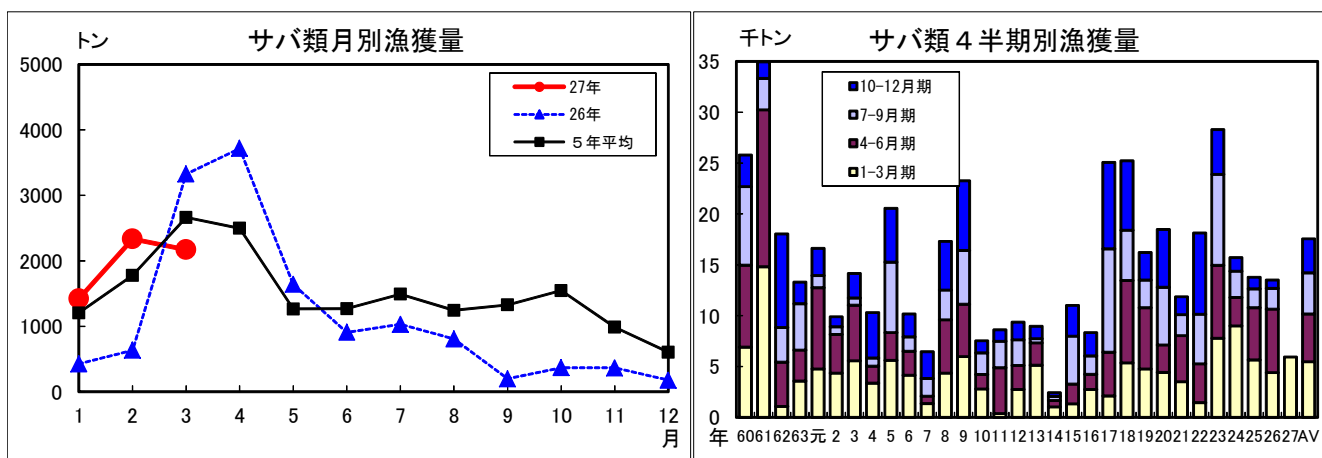


図 サバ類まき網漁獲量変化(4港計)

※平年値は過去5年（平成22～26年）の平均値(AV)、平成27年3月25日までの水揚量を使用

# [マイワシ]

## 1. 漁獲量の動向（農林統計）

全国のマイワシの漁獲量は、昭和30年代から40年代にかけての不漁期の後、昭和48年頃から増加の傾向が見られ、昭和63年には449万トンまで増加しました。

平成元年以降、全国的に漁獲量は減少を続け、平成14から22年までは、10万トンを下回る低い水準で推移していましたが、平成23年以降は10万トン以上に増加し、平成25年は22万トンで14年ぶりに20万トンを超える漁獲がありました。

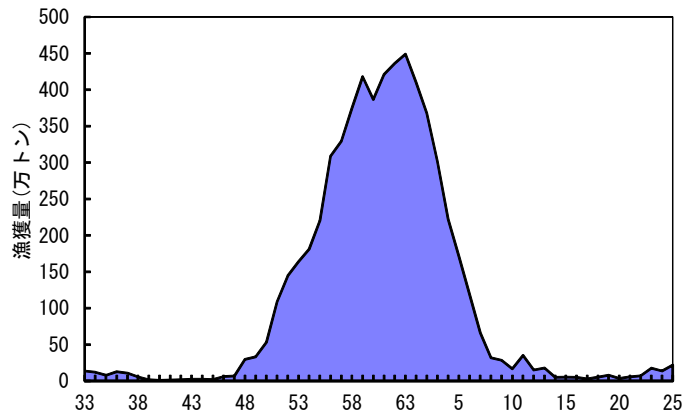


図 全国のマイワシ漁獲量の推移 年

## 2. 平成27年1～3月期の漁況の経過

【4港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域のまき網では、甌島周辺で漁場が形成されました。

薩南海域のまき網では、内之浦沖で漁場が形成されました。

北薩海域の棒受網では、川内沖から長島で漁場が形成されました。

4港計のまき網では、小羽(1歳魚：平成26年生まれ)主体に477トンの水揚げで前年の87%、平年の177%でした。

北薩海域の棒受網は、37トンの水揚げで前年の114%、平年の108%でした。

## 3. 平成27年4～6月期の見とおし

漁獲の主体は、4月は中羽(1歳魚：平成26年生まれ)、5月以降は小羽(0歳魚：平成27年生まれ)でしょう。

来遊量は前年並で、平年を下回るでしょう。

(根拠)

漁獲の主体と来遊量は、現在の漁況経過や近年の漁獲パターンから予測しました。

前期2、3月に産卵親魚と考えられる中羽(1歳魚：平成26年生まれ)のまとまった漁獲が続いていることから、来遊量は前年並程度は見込まれますが、平年は下回る考えられます。

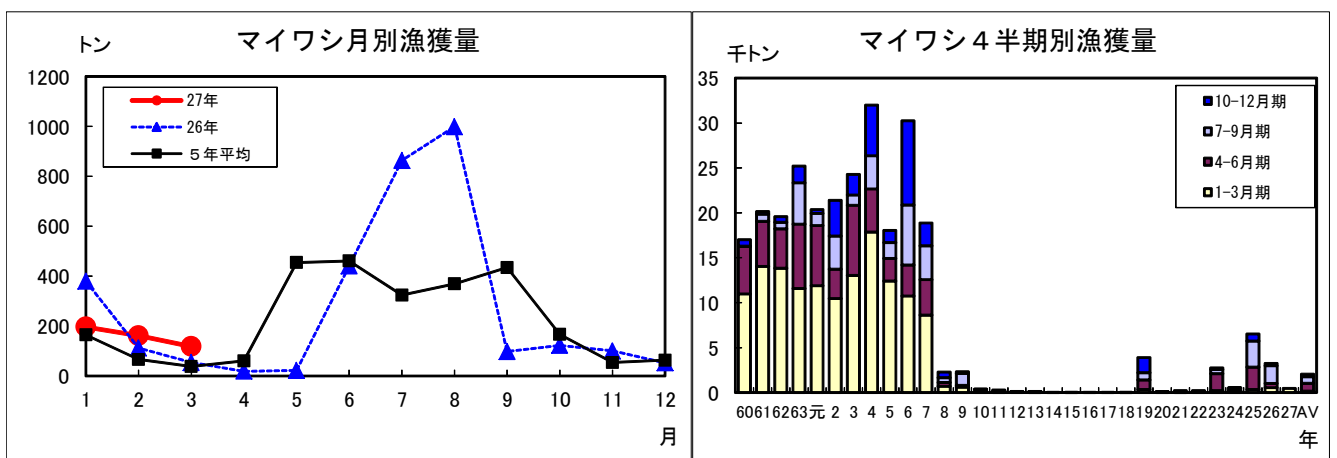


図 マイワシまき網漁獲量変化(4港計)

※平年値は過去5年(平成22～26年)の平均値(AV)、平成27年3月25日までの水揚量を使用

# [ウルメイワシ]

## 1. 漁獲量の動向（農林統計）

全国のウルメイワシの漁獲量は、昭和30年代以降、増減を繰り返しながらも増加傾向を示し、平成6年に6万8千トンとピークを迎えた後、減少傾向に転じ平成12年には2万4千トンまで減少しました。

平成15年以降は再度増加傾向に転じ、平成23年以降8万トンを超える高い水準で推移し、平成25年は8万9千トンで昭和33年以降最高の漁獲量となりました。

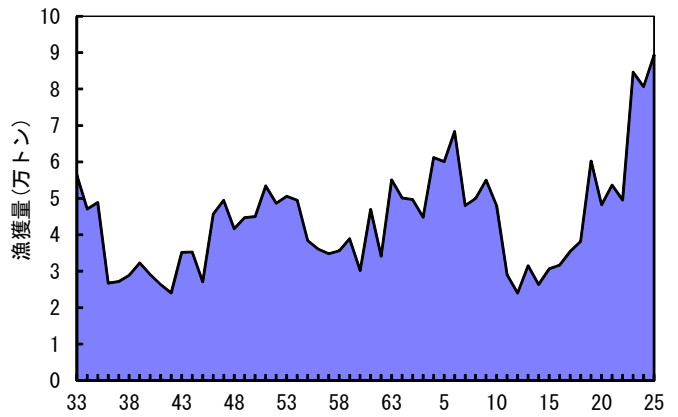


図 全国のウルメイワシ漁獲量の推移

年

## 2. 平成27年1～3月期の漁況の経過

【4港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域のまき網では、甌島周辺に漁場が形成されました。

薩南海域のまき網では、内之浦に漁場が形成されました。

北薩海域の棒受網では、川内沖から長島で漁場が形成されました。

4港計のまき網では、中羽（1歳魚：平成26年生まれ）主体に496トンの水揚げがあり、前年の65%、平年の42%でした。

北薩海域の棒受網では、104トンの水揚げで前年の234%、平年の57%でした。

## 3. 平成27年4～6月期の見とおし

漁獲の主体は、期の前半は中大羽（1歳魚・平成26年生まれ）、期の後半は小羽（0歳魚・平成27年生まれ）になるでしょう。

来遊量は前年・平年を下回るでしょう。

（根拠）

漁獲の主体と来遊量は、現在の漁況経過や近年の漁獲パターンから予測しました。

今期漁獲の主体となる1歳魚（平成26年生まれ）は、平成26年9月以降、低調な漁獲が続いているため、来遊量は前年・平年を下回ると考えられます。

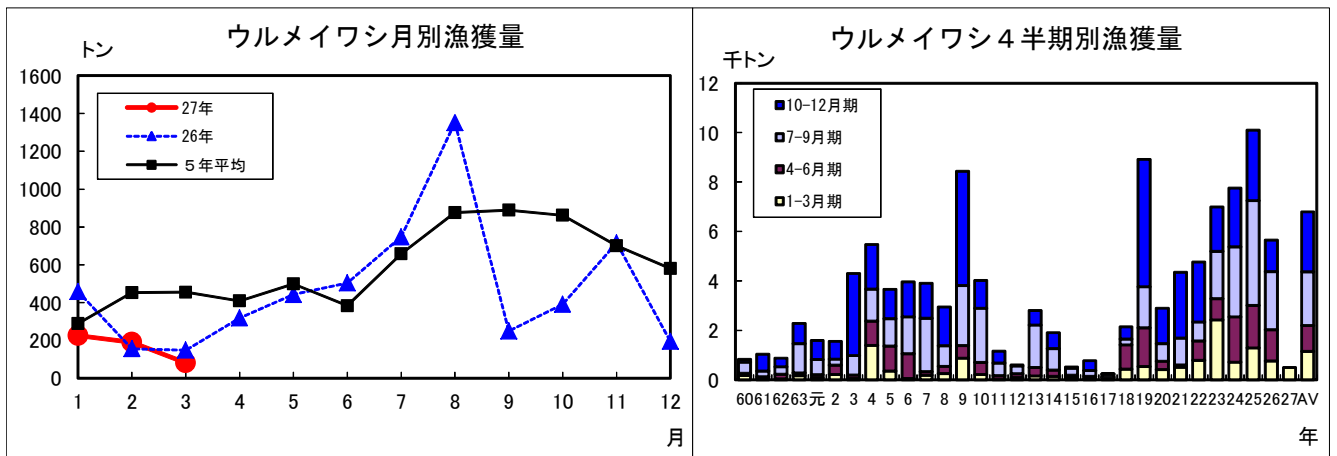


図 ウルメイワシまき網漁獲量変化（4港計）

※平年値は過去5年（平成22～26年）の平均値(AV)、平成27年3月25日までの水揚げ量を使用

# [カタクチイワシ]

## 1. 漁獲量の動向（農林統計）

全国のカタクチイワシの漁獲量は、昭和48年まで30万トン台で変動していましたが、昭和49年以降減少傾向となり昭和54年には13万トンとなりました。

その後、徐々に漁獲量は増加し昭和59年には22万トンとなりましたが、昭和62年には再び14万トンまで減少しました。

昭和63年以降は大きく増減を繰り返し、平成15年は過去最高の53万5千トンとなりましたが、その後減少傾向に転じ、平成25年は24万7千トンとなりました。

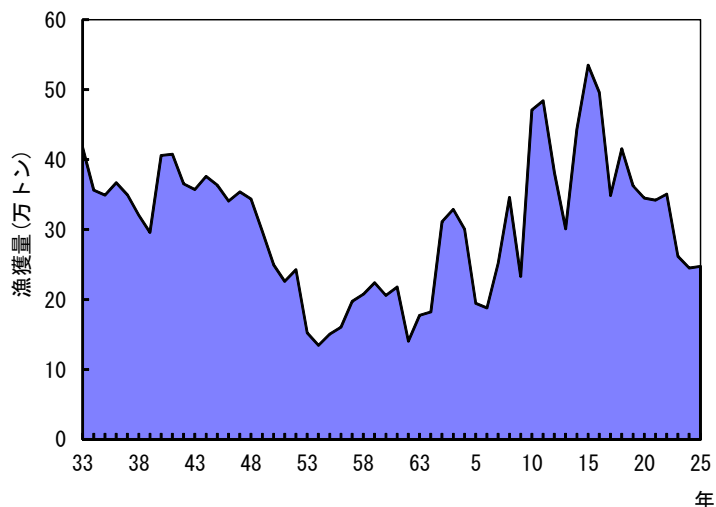


図 全国のカタクチイワシ漁獲量の推移

## 2. 平成 27 年 1～3 月期の漁況の経過

【4 港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域のまき網では、主に串木野沖、甌島周辺、長島に漁場が形成されました。

薩南海域のまき網では、野間池沖に漁場が形成されました。

4 港計のまき網では、大羽（平成 25、26 年生まれ）主体に 282 トンの水揚げがあり、前年の 89%，平年の 148% でした。

北薩海域の棒受網では、75 トンの水揚げがあり、前年の 51%，平年の 63% でした。

## 3. 平成 27 年 4～6 月期の見とおし

漁獲の主体は大羽（平成 26 年生まれ）で、後半は中羽（平成 26 年生まれ）が混じるでしょう。

来遊量は前年・平年を下回ると考えられます。

（根拠）

まき網による直近の漁況は近年としては比較的良好ですが、西薩海域の前年のバッチ網漁が低調であったことから、好漁であった前年や、高い水準にある平年を上回る来遊は見込めないと考えられます。

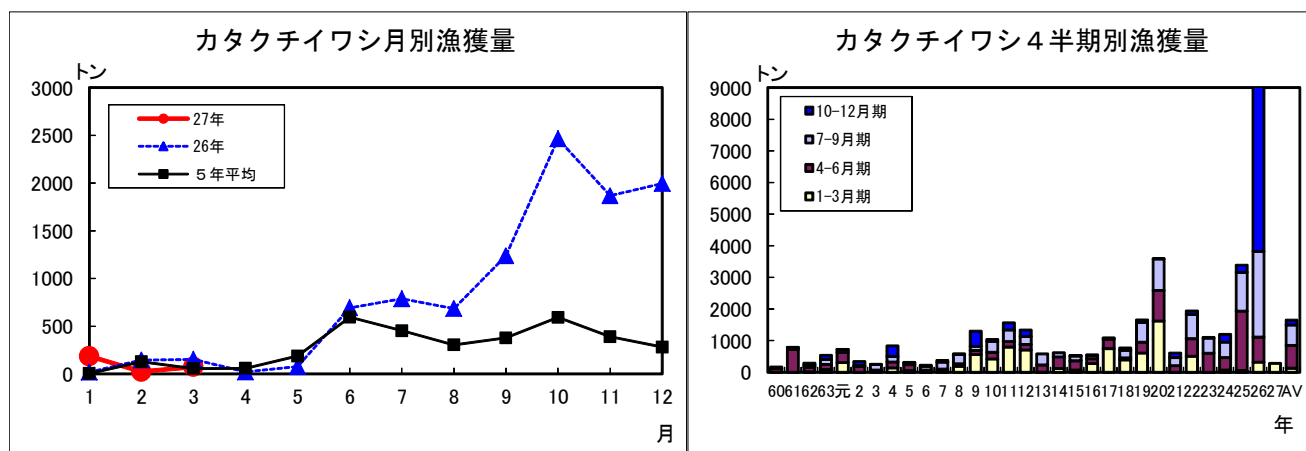


図 カタクチイワシまき網漁獲量変化（4 港計）

※平年値は過去 5 年（平成 22～26 年）の平均値(AV)，平成 27 年 3 月 25 日までの水揚量を使用

[イワシ類参考資料]

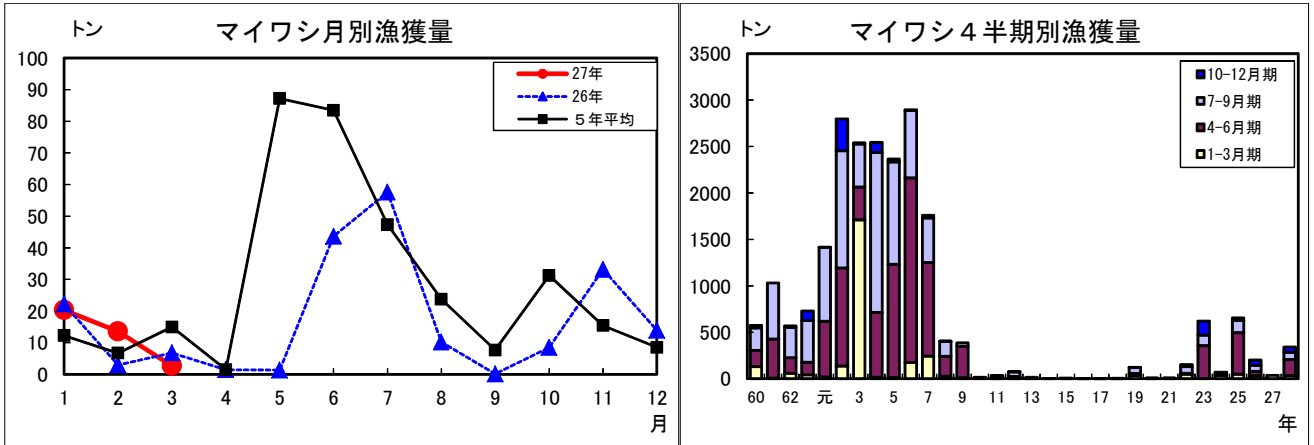


図 マイワシ棒受網漁獲量変化(阿久根港)

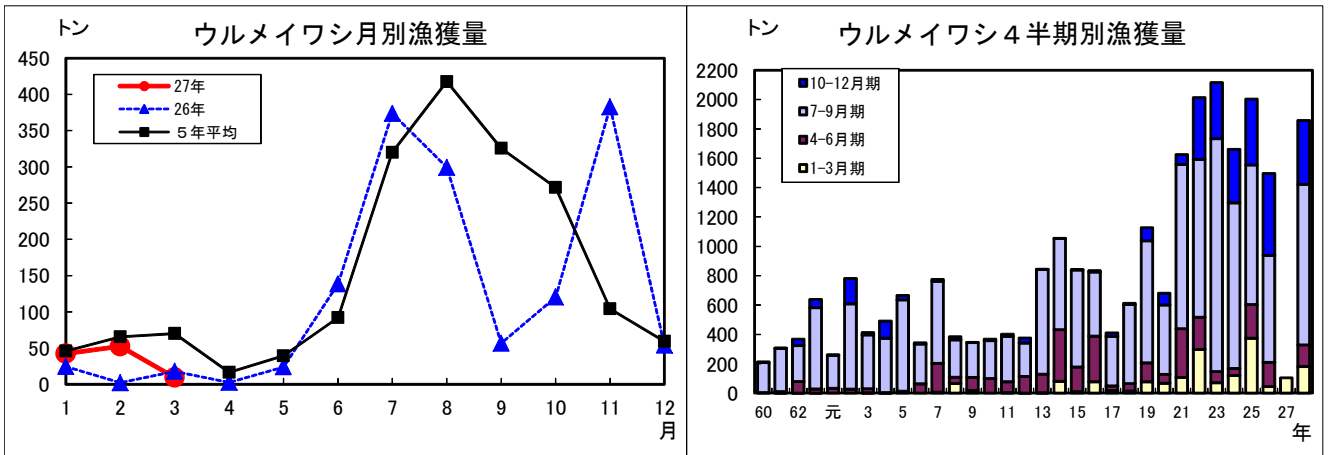


図 ウルメイワシ棒受網漁獲量変化(阿久根港)

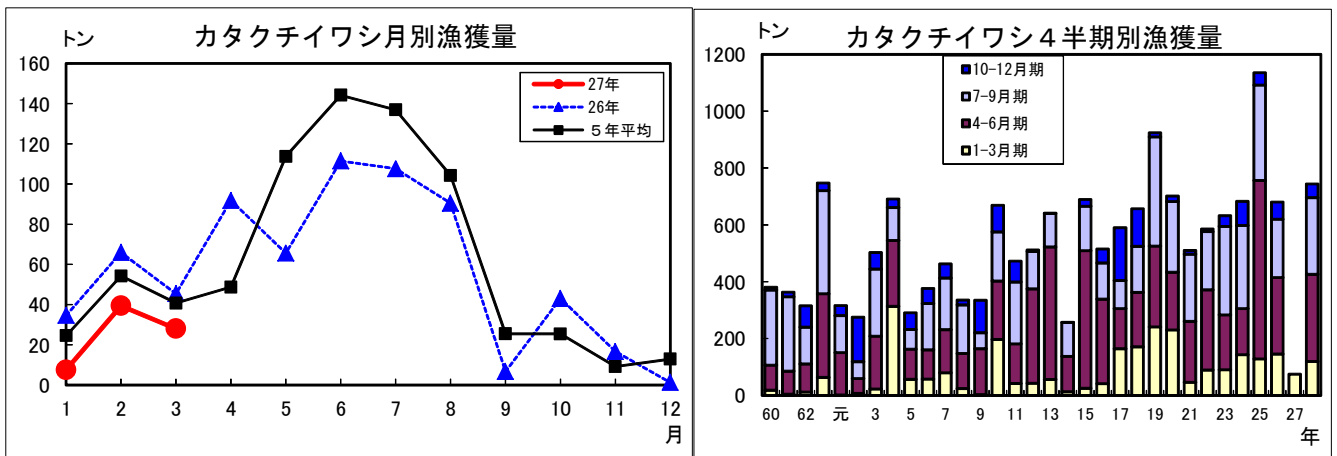


図 カタクチイワシ棒受網漁獲量変化(阿久根港)

※平年値は過去5年(平成22～26年)の平均値(AV),平成27年3月25日までの水揚量を使用



## [参考：漁況経過のみ記載]

〈ムロアジ類（クサヤモロ、モロ）（水産技術開発センター調べ：4港計）〉

### 1. 経年変化及び平成27年1～3月期の漁況の経過

ムロアジ類の漁獲量は、平成2年の21,700トンピークに急減し、平成6年以降は、1,500トンから4,500トンの間で推移しており、平成26年は1,936トンとなりました。

平成27年1～3月は、薩南海域では、漁場形成はなく、各月とも散発的な漁獲にとどまり、期全体で184トンの水揚げで、前年の37%及び平年の28%と低調に推移しました。

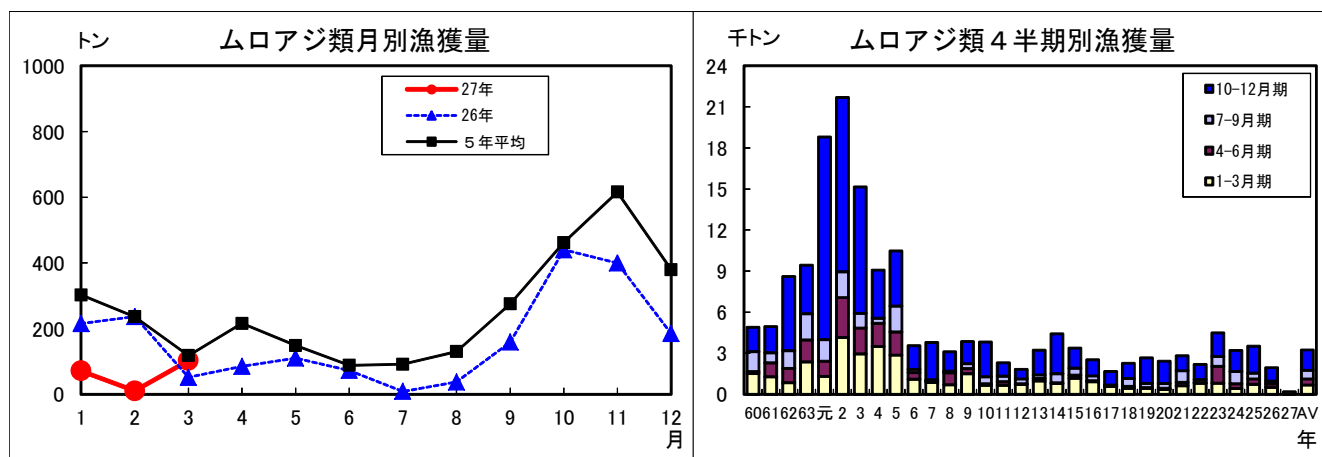


図 ムロアジ類まき網漁獲量変化(4港計)

※平年値は過去5年（平成22～26年）の平均値(AV)、平成27年3月25日までの水揚げ量を使用

〈オアカムロ（水産技術開発センター調べ：4港計）〉

### 1. 経年変化及び平成27年1～3月期の漁況の経過

オアカムロの漁獲量は、平成元年の5,300トンピークに一旦減少し、平成7年に4,400トンと再度ピークを迎えた後は減少傾向となっていました。平成20年は2,291トンと一旦増加しましたが、再び減少傾向で平成26年は630トンとなりました。

平成27年1～3月は、薩南海域では、1月に種子島南、島間沖で中、小主体の比較的好漁が見られ、期全体で200トンの水揚げで前年の88%及び平年の80%となりました。

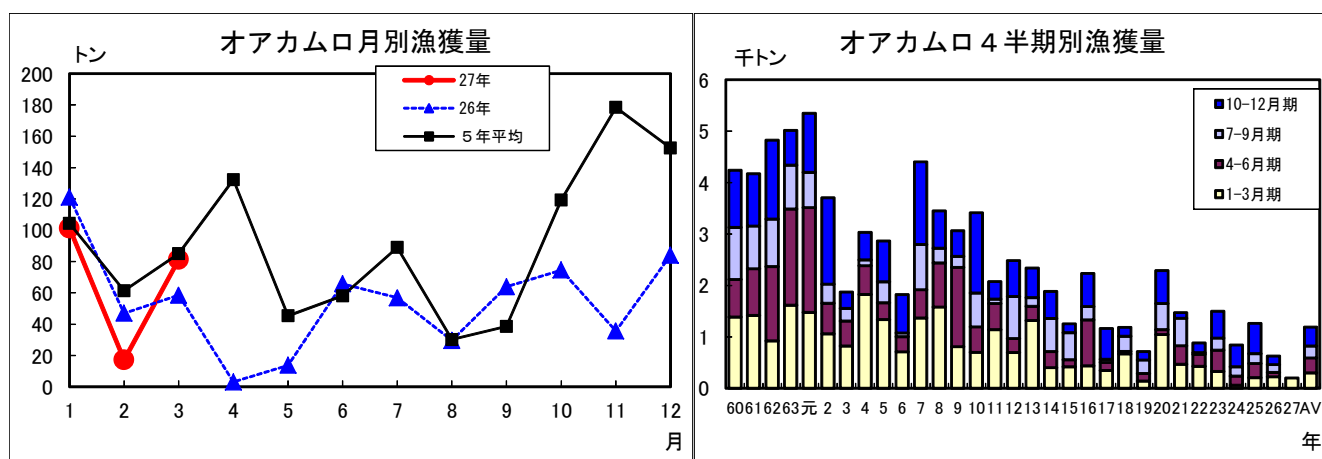


図 オアカムロまき網漁獲量変化(4港計)

※平年値は過去5年（平成22～26年）の平均値(AV)、平成27年3月25日までの水揚げ量を使用

〈マルアジ（アオアジ）（水産技術開発センター調べ：4港計）〉

1. 経年変化及び平成27年1～3月期の漁況の経過

マルアジの漁獲量は、昭和62年から平成元年に1,500トンを超えるピークがあり、その後低調に推移し、平成12年から15年に再度ピークを迎え15年には3,150トンと最高を記録しましたが、平成16年以降は低調に推移し、21年は過去最低の94トンとなりました。

22, 23年はやや増加したものの依然低調でしたが、26年は643トンと増加しました。

平成27年1～3月は、1月に野間池沖、2月に甌東でマルアジ中、小主体の好漁がみられ、期全体で544トンの水揚げで、前年の232%及び平年の409%と好調に推移しました。

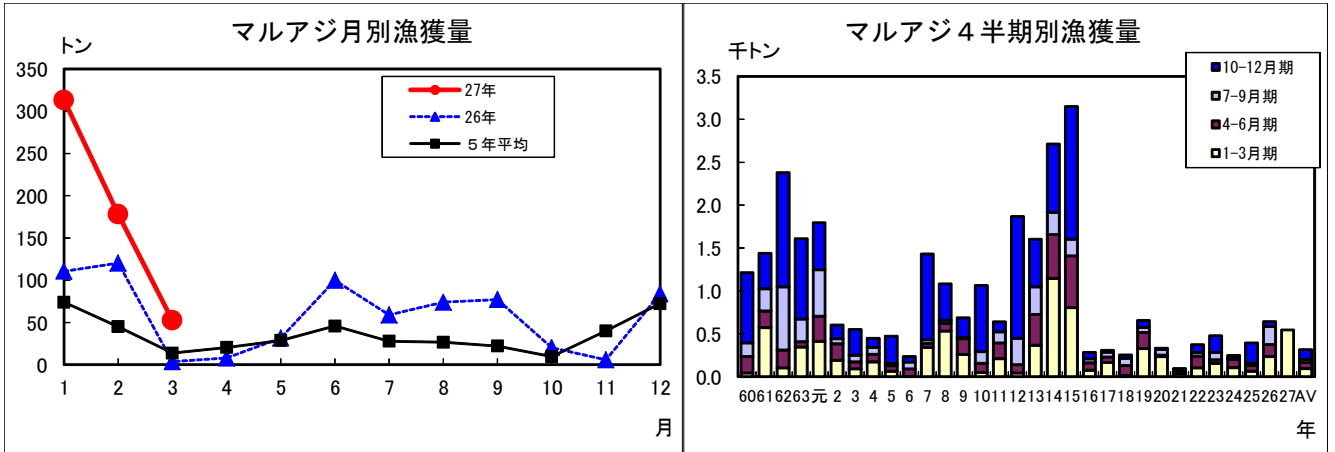


図 マルアジ（アオアジ）まき網漁獲量変化（4港計）

※平年値は過去5年（平成22～26年）の平均値(AV)、平成27年3月25日までの水揚げ量を使用